



## 児童館ふれあいとんど これで今年も風邪知らず

1月14日 中央児童館

地域のお年寄りや親子連れ約80人が集まり、とんどを行いました。近隣の家などから集められたお飾りやお札、お守りなど約100個に火をつけると勢いよく燃え上がりました。参加した人たちは書初めを燃やして筆の上達を祈願したり、炭をおでこにつけ、焼いたミカンを食べて今年一年の無病息災を願いました。

子どもと参加した岡本恵子さん(東一宮)は「地域の人と一緒にとんどができて楽しいですね」と振る舞われたぜんざいを子どもと食べながら語ってくれました。



## 津山消防出初式 防火・防災の重責、心に誓う

1月9日 吉井川河岸緑地公園

今年一年、市民が火災や災害に遭うことなく安心して暮らせるように防火・防災意識を高揚しようと、津山圏域消防組合と津山市消防団の消防出初式が行われました。

式には8方面隊39分団員を中心に消防組合職員、婦人・少年防火クラブなど約1,100人が参加。

式典後、ポンプ車両104台による一斉放水が行われ、白・赤・青色など迫力ある水のカーテンに、見学に訪れた市民からは歓声や拍手が送られました。

## 阿波地域除雪作業 まちと高齢者を守る

1月23日 阿波地域一円

年明けからの積雪が多い所で1.5mに達した阿波地域で、津山市消防団阿波方面隊を中心に約60人が除雪作業を行いました。

団員は8地区に分かれて高齢者世帯など27戸の屋根の雪下ろしと出入口の雪かき、消防水利の確認と確保を実施。このうち大杉地区では、団員7人が高齢者宅を一軒ずつ回り、1m近く積もった屋根の雪を慎重に下ろしていきましました。

阿波地域防災防犯会では「これからも降雪が予想されます。除雪時の事故や火災が無いように気を付けてほしい」と地域に呼び掛けていました。



## 第31回 新春津山川柳大会 工夫を凝らして世俗を風刺

1月16日 津山市総合福祉会館

厳しい冷え込みとなり大雪が降った16日、市内外から154人の川柳愛好家が集まり、新春津山川柳大会が開かれました。

参加者は事前に出された「夢」「味方」「階段」などに、席題「新」を加えた8つのお題に2句ずつ投句しました。集まった2,464句の中には「毒舌も味方と明日の糧にする」や「天使の羽 ふんわりと新キャベツ」など日常の思いを詠んだ句や自由律で心が温くなる句などのほか、社会問題を風刺した句もあり、感心させられました。

第36回 元旦走り初め大会

## 新年をウサギのような健脚で祝う

1月1日 津山総合体育館周辺



今回の大会は<sup>おみそか</sup>大晦日からの雪と寒波の影響で開催が危ぶまれましたが、元日の早朝には新年を祝うかのように天候が回復したことと大会関係者の尽力もあり、開催に漕ぎ着けることができました。路面状態が悪いことから純粹に走りを楽しむことになった今回の大会には、市内外の幼児から年配の人まで250人のランナーが参加。2kmと4kmのランニングコースにそれぞれ挑戦しました。

滋賀県から市内に里帰りをして三世代で参加した片田堅さんは「新年のさわやかな空気の中、家族そろって走ることができて、とてもすがすがしい気持ちです」とさわやかに語ってくれました。

走り終わった後にはお楽しみ抽選会も行われ、参加者は今年初めての運試しも楽しみました。

## 平成23年 津山武道学園稽古始め 修練で育む強い心身

1月8日 津山総合体育館

平成13年から行われている稽古始めも、昨年9月に津山武道学園が発足したこともあり、新たな気持ちでの新年の船出となりました。

学園長が「文武両道、武道を通して豊かな人生を送ってほしい」とあいさつした後、500人の参加者は各会場に分かれて錬成を行いました。

津山総合体育館では、柔道・空手・少林寺拳法の子どもたちが集合。吐く息が白くなる中、受け身や打ち込み、形、組み手などの稽古が行われ、会場には子どもたちの気合いの入った元気な声が響いていました。



## 第13回 つやまこどもオンステージ 響け! 歌声・ダンスのリズム

12月25日 津山文化センター

歌や踊りなど、子どもたちが日頃の練習の成果を発表するステージに市内外から12団体、約280人が出演しました。

サンタクローズなどの衣装をまとった可愛い合唱や勇壮な太鼓の響き、幻想的なバレエ、ヒップホップにゴスペルを盛り込んだ軽快なダンスなど、子どもたちはステージ狭しと歌い、踊り、躍動しました。

詰め掛けた大勢の観客からは、盛んに温かい拍手が送られ、フィナーレには全出演者がステージに登場し、大いに盛り上がりました。